

出資団体台帳

出資団体名	9.飛騨大鍾乳洞観光株式会社
-------	----------------

所管課	観光課
担 当	

1. 出資団体概要 (令和6年4月1日現在)

①法人分類	株式会社			(		)
②業務分類	観光・レジャー			(		)
③主な活動範囲	市内規模			(		)
④所在地	高山市丹生川町日面1147番地					
⑤設立年月日	昭和57年2月4日					
⑥従業員数	役員	(常勤)	2 人	(非常勤)	7 人	
	正社員	(常勤)	8 人	(内出向)		
⑦役員等	役職名	氏名			市所属・職位	
	代表者					
	役員					
⑧資本金						
11,000 千円						
	出資者	資産種別	出資額	出資割合		
	高山市	有価証券	4,500千円	40.9%		
	他自治体			0.0%		
	その他	有価証券	6,500千円	59.1%		
	【備考】					

⑨設立目的			
定款に掲げる主な事業内容		現在の実施の有無	主な受益者
鍾乳洞の観賞並びに博物館の観覧事業		実施 理由 ()	施設利用者
ドライブイン事業		実施 理由 ()	施設利用者
田舎体験教室等の運営		実施 理由 ()	観光客
酒類の販売		実施 理由 ()	観光客
乗鞍山麓五色ヶ原の森のネイチャーガイド業		未実施 理由 (指定管理期間の終了)	
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
⑩地域の関わり	丹生川地域における観光振興の観点で事業展開しており、地域住民からの出資や役員就任により運営されている。旧大橋家を活用し、食体験や農業体験などの田舎体験ができる施設として修学旅行などの受入れを行い、地域の特色を活かした事業を実施。		
⑪市民の関わり	市民が地域の貴重な自然資源を観賞できるよう、市民は入場無料としている。各事業には地域住民の関わりも強く、地域の雇用促進にも繋がっている。		
⑫経緯			
出資時の状況	H6.5.10 大橋氏より株式100株の寄付を受け、旧丹生川村が100株（1,000千円）を取得 飛騨大鍾乳洞の開発者である、大橋氏の意志を引き継ぎ、地域の観光産業の振興を図る。		
その後の経緯	H8.5.13 大橋氏より株式450株の寄付を受け、旧丹生川村の保有株550株（5,500千円）となる。 H16 100株（1,000千円）減資 乗鞍国際観光㈱へ H17.2.1 市町村合併により市に450株（4,500千円）の出資を継承		

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
飛騨大鍾乳洞、 大橋コレクション館	—	団体事業	観光鍾乳洞と展示館の入場施設 入込数は年間14万人前後 施設周辺の落石等の対応が必要	黒字	無	無	有

3. 財務状況

(1) 貸借対照表			(令和元年5月31日現在)			(令和2年5月31日現在)			(令和3年5月31日現在)			(令和4年5月31日現在)			(令和5年5月31日現在)		
項目			平成31年度 第 38 期		令和2年度 第 39 期		令和3年度 第 40 期		令和4年度 第 41 期		令和5年度 第 42 期						
			決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減					
資産の部合計 A			618,072 千円	2.6 %	611,963 千円	▲1.0 %	615,176 千円	0.5 %	592,086 千円	▲3.8 %	602,456 千円	1.8 %					
	流動資産 B		170,472 千円	1.1 %	169,688 千円	▲0.5 %	187,035 千円	10.2 %	165,834 千円	▲11.3 %	180,815 千円	9.0 %					
	固定資産 C		447,408 千円	3.2 %	442,183 千円	▲1.2 %	428,141 千円	▲3.2 %	426,252 千円	▲0.4 %	421,641 千円	▲1.1 %					
	繰延資産		192 千円	▲34.2 %	92 千円	▲52.1 %	0 千円		0 千円		0 千円						
負債の部合計			13,037 千円	37.9 %	4,849 千円	▲62.8 %	5,777 千円	19.1 %	2,848 千円	▲50.7 %	9,128 千円	220.5 %					
	流動負債 D		10,137 千円	54.7 %	4,849 千円	▲52.2 %	5,777 千円	19.1 %	2,848 千円	▲50.7 %	9,128 千円	220.5 %					
	(うち借入金) E		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)						
	固定負債		2,900 千円	0.0 %	0 千円		0 千円		0 千円		0 千円						
	(うち借入金) F		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)						
純資産の部 G			605,035 千円	2.0 %	607,114 千円	0.3 %	609,400 千円	0.4 %	589,238 千円	▲3.3 %	593,328 千円	0.7 %					
	資本金		11,000 千円	0.0 %	11,000 千円	0.0 %	11,000 千円	0.0 %	11,000 千円	0.0 %	11,000 千円	0.0 %					
	利益剰余金等		594,035 千円	2.1 %	596,114 千円	0.3 %	598,400 千円	0.4 %	578,238 千円	▲3.4 %	582,328 千円	0.7 %					
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標：無	無	-	無	-	無	-	無	-	無	-					
	自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上	97.9%	▲0.5 %	99.2%	1.3 %	99.1%	▲0.1 %	99.5%	0.5 %	98.5%	▲1.0 %					
	流動比率 (B/D)	目標：150%以上	1681.7%	▲34.6 %	3499.4%	108.1 %	3237.6%	▲7.5 %	5822.8%	79.9 %	1980.9%	▲66.0 %					
	固定比率 (C/G)	目標：100%以下	73.9%	1.1 %	72.8%	▲1.5 %	70.3%	▲3.5 %	72.3%	3.0 %	71.1%	▲1.8 %					
	借入金依存度 ((E+F)/A)	目標：前年比較減	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%						

(2) 損益計算書		(平成30年6月1日から令和元年5月31日)		(令和元年6月1日から令和2年5月31日)		(令和2年6月1日から令和3年5月31日)		(令和3年6月1日から令和4年5月31日)		(令和4年6月1日から令和5年5月31日)	
		平成31年度	第 38 期	令和2年度	第 39 期	令和3年度	第 40 期	令和4年度	第 41 期	令和5年度	第 42 期
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益		161,237 千円	1.7 %	140,009 千円	▲13.2 %	90,107 千円	▲35.6 %	94,336 千円	4.7 %	144,918 千円	53.6 %
営業費用		140,002 千円	4.5 %	143,393 千円	2.4 %	115,711 千円	▲19.3 %	122,201 千円	5.6 %	141,466 千円	15.8 %
	(うち売上原価) (対営業収益比率)	(14,339 千円)	(8.9%)	(13,373 千円)	(9.6%)	(8,215 千円)	(9.1%)	(9,279 千円)	(9.8%)	(16,751 千円)	(11.6%)
	(うち人件費) (対営業収益比率)	(51,133 千円)	(31.7%)	(55,050 千円)	(39.3%)	(55,039 千円)	(61.1%)	(112,922 千円)	(119.7%)	(59,497 千円)	(41.1%)
〈営業損益〉		21,235 千円	▲13.7 %	▲ 3,384 千円	▲115.9 %	▲ 25,604 千円	▲656.6 %	▲ 27,865 千円	▲8.8 %	3,452 千円	112.4 %
営業外損益		2,123 千円	▲25.3 %	7,851 千円	269.8 %	10,082 千円	28.4 %	9,119 千円	▲9.6 %	2,141 千円	▲76.5 %
〈経常損益〉		23,358 千円	▲14.9 %	4,467 千円	▲80.9 %	▲ 15,522 千円	▲447.5 %	▲ 18,746 千円	▲20.8 %	5,593 千円	129.8 %
〈当期純損益〉		13,090 千円	▲21.7 %	3,179 千円	▲75.7 %	3,385 千円	6.5 %	▲ 19,061 千円	▲663.1 %	5,190 千円	127.2 %

〈評価分析〉	現金（預金）などの流動資産を多く保有しており、財務状況は盤石と言える。R3、R4はコロナ禍の影響が大きく、営業損益が大きくマイナスとなったが、R5は入場者数が増加して営業損益段階で黒字計上となった。
--------	---

4. 市の財政的関与

区分	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
出資金	4,500 千円 (40.9%)	4,500 千円 (40.9%)	4,500 千円 (40.9%)	4,500 千円 (40.9%)	4,500 千円 (40.9%)
負担金、補助及び交付金		485 千円	1,132 千円	83 千円	
指定管理料					
その他					
備考	補助金内訳 R2 新型コロナウイルス対策観光振興事業補助金 485千円、R3 新型コロナウイルス対策商業機能等持続化事業補助金 310千円、雇用調整支援事業補助金 822千円、R4 雇用調整支援事業補助金 83千円				

5. 課題等

項目			市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	・自然資源を活かした施設で、原価がかからない。 ・近隣に飛騨高山や奥飛騨温泉郷があり観光客の利便性が良い。 ・近郊に競合相手がいない。	・観光鍾乳洞がメインの入場施設 ・近隣に飛騨高山や奥飛騨温泉郷があり観光客の利便性が良い。 ・飛騨の観光施設としての認知度が広がりつつある。
		弱み	・大雨などの災害で影響を受けやすいため、進入口である市道が寸断すると休業を余儀なくされる。 ・自然資源のため、足腰の弱い人には厳しい面がある。	・大雨などの災害で影響を受けやすい。 ・国道から鍾乳洞までの道路の土砂崩れや崩落が過去に発生し営業できないことがあった。 ・鍾乳洞内への雨水の流入や施設周辺での土砂崩れの際は臨時休業。
	外部分析	機会	・中部縦貫自動車道の延伸による客足の増加が見込まれる。 ・飛騨の英雄「両面宿儺」の発信による誘客促進。	・インバウンド客増による来場者上乗せを期待。 ・冬季間のイベント「氷の渓谷」によるオフ対策。
		脅威	・大雨等による災害。	・災害（特に大雨）による影響への不安。 ・お盆などの超繁忙期間の駐車場が満車になり国道まで車が並び交通の妨げとなることがある。
事業面 （必要性、公益性、採算性、収益性など）			・自然資源や故人の蒐集品を生かした原価のかからない観光資源であり、周辺への経済波及や地場産品の消費拡大など地域にとって大切な施設である。	・メインの入場料収入は原価がないため採算性が良い。 ・売店部門の収支も採算性は良い。 ・ファーストフード部門は採算性は低いが来場者の満足度は高い。
財政面 （財務状況の現状や将来の見通しなど）			預貯金は1.8億円程度保有しており財政面は盤石	・R6年はWEB広告やインバウンド客の上乗せもあり2000年以来25年ぶりに来場者16万人を上回る見込み。
施設・設備 （所有する建物や設備等の状況など）			・建物や附属施設を所有しているが、計画的に修繕されており、更新のための資金も十分に有している。	・施設の老朽化に対応して十数年前より計画的に改修している。 ・定期的な修繕を今後も実施する。 ・洞内の通路整備や見どころの整備など常に入場者目線で実施している。
組織・人員体制 （役員や従業員等の状況など）			・職員が取締役、監査役に就任している。 ・職員OBが役員や従業員として勤務している。	・職員の若返り対策を行った。 ・役員は高齢化が進んでいる。
公共施設等総合管理計画 （方針と今後の考え方）			—	—
自由記載 （団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について）				